

しまね医療情報ネットワーク「まめネット」

島根県が構築し運用中の「しまね医療情報ネットワーク」(愛称「まめネット」)の、当院での運用(診療情報共有サービス、画像中継サービス)を開始します。当院での利用が始まると、他の参加医療機関の情報が参照可能になり、患者紹介時やフォローアップ時の情報参照などでの利用が期待されます。

「まめネット」は医療機関同士を結び、情報は医療機関のユーザのみ参照可能で、患者さんは直接まめネットに接続することはできません。

1月から当院職員へのID発行と、患者さんの同意を得る手続きを始めます。同意は医療サービス課窓口で受け付けます。患者さんに「まめネット」参加への同意を呼びかけていただきますよう、よろしくお願いいたします。



Ai認定診療放射線技師資格取得

放射線部 かじ たに たか ふみ
梶 谷 尊 郁

平成24年度病院医学研究助成でAi認定診療放射線技師の資格を取得しました。この資格は、死後画像の撮影と一次読影を行うことを目的とした認定制度です。現在、当院内死亡・解剖のご遺体は、放射線部技師全員が24時間体制で対応していますが、警察依頼は、事件性の有無・内因死・外因死の判断など検査の特殊性もあり、私を含めた3名の認定技師が対応し、死因究明の読影補助を行っています。今後、Aiの需要は増加すると予測され、より高度な知識の習得に努めていきたいと考えています。

平成23年6月27日(センターオープン)
～平成25年11月30日までの実施件数

当 院		解剖学ご遺体 (献体)	法医検査ご遺体 (警察依頼)	病理検査ご遺体 (他医療機関等)
入院死亡 ご遺体	外来死亡ご遺体 (救命救急センター)			
695	72	104	47	0

合計 918 件

「ちょっと気になる健康講座」をはじめました

当院に来院される患者さんや一般市民の方を対象とした健康ミニ講座を、平成25年11月7日(木)から外来棟1階待合ホールの一隅で開講しています。その名も「ちょっと気になる健康講座」です。

毎週木曜日の11時00分から11時30分の間、当院の職員が講師となり健康や医療に関する「ちょっと気になる」話題を参加いただいた方にお話しています。

これまでに前立腺がん、腸閉塞、お薬手帳の活用法、肺年齢、がんと緩和ケアなど、バラエティに富んだ内容を簡単にわかりやすく解説し、講座の終盤には参加いただいた方から気軽に質問していただくなど、とてもアットホームな雰囲気健康講座です。

これからも患者さんや一般市民の方に健康をキーワードとした「ちょっと気になる」有用な情報を発信していきますので、職員の皆様のご協力をお願いします。



ボランティア 表彰式・感謝状贈呈式

当院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、院内の案内や環境整備、コンサート等様々な場面で個人および団体のボランティアの皆様にお世話になっています。平成25年11月22日(金)に一昨年10月から昨年9月まで活動いただきましたボランティアの皆様への表彰式並びに感謝状贈呈式を行いました。



SHIMANE UNIVERSITY HOSPITAL

NEWS 島大病院ニュース

2014.01 Vol.3

CONTENTS

年頭のごあいさつ 2014

総合診療医養成プログラム「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」

薬剤部がISO 9001/品質マネジメントシステムの認証を取得

日本医療機能評価機構による病院機能評価受審

特定共同指導を終えて

しまね医療情報ネットワーク「まめネット」

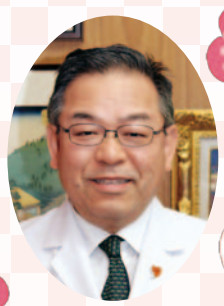
Ai認定診療放射線技師資格取得

「ちょっと気になる健康講座」をはじめました

ボランティア表彰式・感謝状贈呈式



右から
病院長 井川 幹夫
コンシェルジュ 石田 こずえ
コンシェルジュ 柳楽 真名美
看護部長 秦 美恵子



年頭のごあいさつ 2014

病院長 いがわ みき お 夫
井 川 幹 夫

あけましておめでとうございます。昨年は、特定共同指導、病院機能評価等で職員の皆様には大変お世話になりました。今年も大学病院としてのミッションを果たすために、先進的医療・高度医療の提供、がん医療と急性期医療の充実、優れた医療人の養成等を継続的に進めなければなりません。特に文部科学省に選定された総合診療医養成プログラム「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」について本格的に取り組む必要があります。昨年10月からスタートした小児心臓外科手術は、順調に手術症例を重ね、ロボット手術支援システム「ダ・ヴィンチ」による前立腺がんに対する前立腺全摘の症例集積も順調に進んでいます。先進医療を目指して、膀胱がんに対する膀胱全摘、回腸新膀胱造設術、腎がんに対する腎部分切除術も実施しており、婦人科、消化器外科領域にも適応を拡大します。今後数年かけて画像診断装

置から手術器械等まで計画的に医療機器整備を行います。

病院運営については、職員の皆様のご尽力により大幅な手術件数の増加等、実績が上がっておりますが、病院再開発により整備した設備の効率的活用等、課題もあります。他に、救命救急センターは24時間体制で県全域を対象とした救急医療を担っていますが、継続的なセンターの稼働には全診療科の支援が必須ですので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。職員の皆様に当院の課題を共有していただき、他職種の方々の意見を反映した病院運営を行います。すべての病院職員を対象として、来年度以降の病院運営の方針等について、説明と意見交換会を年度内に開催しますので、是非ご出席ください。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

総合診療医養成プログラム

「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」

平成25年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業に本学から申請した「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」が選定されました。同事業は近未来の超高齢者社会において、多様なケアニーズに適切に対応できる、リサーチマインドを持った総合診療医の養成が目的です。本学では県や市町村、医師会等のご協力により「しまね地域医療支援センター」を設立しましたが、総合診療医の養成に向け、これまで以上に支援をお願いしたいと思います。



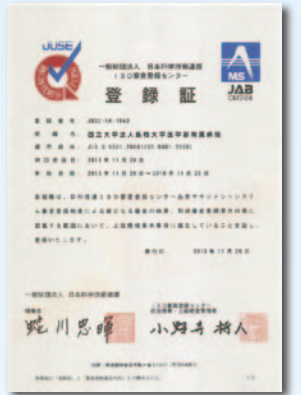
キックオフ会議での病院長挨拶

薬剤部がISO 9001/品質マネジメントシステムの認証を取得

なおらこうじ
薬剤部長 直良 浩司

当院薬剤部は、このたび品質マネジメントシステム(QMS)の外部審査を受け、平成25年11月にJIS Q 9001:2008(ISO 9001:2008)に適合しているとの認証を取得しました。QMSは製品やサービスの品質を管理するシステムであり、施設全体あるいは院内の部門単位で認証を取得している医療機関が増えつつあります。今回、薬剤部で認証を受けた登録範囲は、病院内で行う調剤、注射薬調剤、特殊製剤の調製、医薬品管理、医薬品情報管理、麻薬管理、臨床薬物治療管理、試験研究というすべての業務であり、「薬剤部で調剤・調製された医薬品や製剤」および「服薬指導や薬物療法への薬

学的介入などにおいて薬剤師が提供する情報」が品質管理の対象となっています。今後、外部審査機関による毎年の中間審査や3年毎の更新審査を受けながら、本マネジメントシステムを効果的に運用することで薬剤部業務の改革・改善につなげ、さらなる業務拡大や質の向上を目指していきます。



日本医療機能評価機構による病院機能評価受審

当院では、地域の住民の皆さんから「頼れる病院」を目指し、種々の外部評価を受けています。今年度は環境マネジメントシステム、プライバシーマークや薬剤部のISO 9001などを受審し、認証されています。さらに、平成25年12月12日(木)、13日(金)の2日間、日本医療機能評価機構のサーベイヤーによる訪問審査を受審しました。同機構の認定病院は12月現在、全国8,558病院中2,355病院で、島根県下では16病院を数えます。訪問審査当日は、病院業務が通常通り行われるなか、担当者の適切な対応で訪問審査を終えることができました。このことは、サーベイヤーによる講評からも確認できました。病院職員の皆様にはご協力をいただき有難うございました。



病院機能評価研修会

特定共同指導を終えて

平成25年8月29日(木)、30日(金)の2日間、保険診療の質的向上および適正化を図ることを目的にした特定共同指導が当院において実施されました。

指導にあたっては、各診療科や各中央診療施設等の医師や看護師などの医療系メンバー、事務系メンバーから構成した「特定共同指導プロジェクト会議」を立ち上げ、他大学からの情報提供に基づく指摘事項分析、各診療科指導対象の全症例の個別指導研修および院内視察のシミュレーションなどを実施しました。

また、指導前日の午後からは外来診療および手術等の予約を抑え、学会等出張を極力避け、医師は、原則として全員院内待機の体制で指導に臨みました。

この度、特定共同指導の結果の通知があり、診療内容

や診療報酬の請求に関し、診療担当者等の理解も十分得られるなど、好ましい評価を得ることができました。今回の特定共同指導を機会に指摘のあった事項について改善を行うことで、よりよい病院となるよう努めて参ります。



外部講師を招いての特定共同指導講演会



島大病院 国内初の救命例

クロモバクテリウム・
ビオラセウム感染敗血症患者皮膚科 助教 ^{むら た すすむ} 村 田 将

昨年9月にショック状態にて当院に救急搬送された患者より、*Chromobacterium Violaceum* (クロモバクテリウム・ビオラセウム) を血液、左足趾および皮膚の膿疱から検出しました。当該菌敗血症としてICUにて全身管理の上、複数の抗菌薬投与、左母趾切断、切開排膿などの集学的治療を行い救命しました。

クロモバクテリウム・ビオラセウムは通性嫌気性グラム陰性桿菌で、熱帯・亜熱帯地域においてヒトへの感染が知られています。感染後は内臓(肺や肝臓など)に膿瘍を作り、急速に全身症状が悪化し、致死率は50～60%と言われています。

調べ得た限りでは、本邦での当該菌のヒトへの感染は平成11年の大阪での敗血症例(死亡)と平成15年の熊本での蜂窩織炎の2例しかなく、本症例は3例目となりました。敗血症としては2例目で、本邦初の救命例となりました。

クロモバクテリウム・ビオラセウムに関して、PubMedで検索した結果、米国、東南アジアからの報告例が複数みられ、敗血症に対する多くの治療経験例(失敗例を含む)の情報が入手できました。これら先人の経験や知識を基に先手の治療が選択でき、また診療科の垣根を越えた協力体制(ICUを始め呼吸器・化学療法内科、循環器内科、肝臓内科、神経内科、脳神経外科、精神科神経科、眼科、歯科口腔外科、リハビリテーション部、検査部など)にて治療に当たれたことがよい結果に繋がったと思われます。

地球温暖化が進みつつある今日、山陰地方においても環境の変化から今後も新たな感染症に出会う機会があるかもしれません。今後の診療の参考になれば幸いです。

患者の初診時の皮膚症状



躯幹にみられた紅暈を伴う米粒大の膿疱



左母趾の壊疽性変化



研修医・指導医・学生の皆さん こそってご参加ください。

島大総合医セミナー

飯塚病院 総合診療科 清田雅智先生を招いて

参加費
無料

事前申し込みは
不要です。

この度、日本の総合診療・救急医療における
西の雄ともいえる飯塚病院より
清田雅智先生を招いて
総合医セミナーを開催致します。

島根大学医学部附属病院 みらい棟案内図



みらい棟玄関
(病院内からは入れません)

みらい棟へは病院内からはICカードがないと入れません。
みらい棟玄関(立体駐車場側)からお入り下さい。
西門から入られると右手に駐車場があります。

平成26年

2月7日(金)

18:00~20:30

於:ギャラクシー(みらい棟 4F)

1. レクチャー

90分

『part 1 血液ガス・酸塩基平衡の基礎』

40分

休憩

5分

『part 2 血液ガス分析の臨床応用』

45分

飯塚病院総合診療科 清田雅智 先生

2. 症例検討

60分

著しい代謝性アシドーシスと 意識障害を主訴として救急搬送された56歳女性

なお、本セミナーは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」―リサーチマインドを持った総合診療医の養成―の一環として、継続的に開催いたします。

島根における総合診療・救急医療のさらなる発展を目指して皆様のご意見、ご提案をお寄せください。

主催: 島根大学医学部附属病院

連絡先(当番世話人): 呼吸器・化学療法内科 栗屋 幸一(内線 2580)